

今月の5冊



『げんじつ』
『幻日』 市川森一(著) / 講談社
 九州キリシタン王国建国は目前だった。幕府軍を震撼させた長崎要塞化計画とは？日本史上最大の一揆といわれる島原の乱を、大胆な推理で活写する長篇歴史小説。【中央・葦山】

図書館だより

*【 】内は所蔵館名

『嫁の遺言』 加藤元(著) / 講談社
 満員電車でふと自分の手に触れた冷たい手。間違いのない、あれは春に死んだ嫁の手やった。彼女がどうしても伝えなかったこととは…。不器用だけどあたたかい7篇。【中央】

『与太話浮気横槍』 犬飼六岐(著) / 新潮社
 小間物屋の安次郎の苦手なものは、真面目仕事と、女房たちの井戸端会議。泣き笑いの日々を描く江戸人情あふれる連作集。【中央】

『圓朝語り』 稲葉稔(著) / 徳間書店
 自分の芸に悩む若き噺家・圓朝は、大川端の娘殺しの下手人を追ひ、江戸の町を尋ね歩く。手には怪談『牡丹灯笼』の創作帖。【中央】

『11 (イレブン)』 津原泰水(著) / 河出書房新社
 異形の体を見世物にしている一家と、真実だけを語る怪物・くだんの物語『五色の舟』ほか変幻自在、11の作品世界。【中央】

子どもの本あれこれ
 テーマ 年をとるのもいいものだ

おじいさん、おばあさんは、きみたちの知らないことを、たくさん知っている。いろんなことができるんだよ。

『おもいついたらそのときに!』 西内ミナミ(作)、にしまきかよこ(画)
 おばあさんは、はなやさんにも、レストランのシェフにも、ようぶくやさんにも、びょうしさんにもなれるんです。【中央】

『いいからいいから』 長谷川義史(作)
 「いいから、いいから。ゆっくりしてください。」雷の親子もおばけも思わずゆったりする、おじいちゃんのみまわりのことば。【葦山・長岡】

『リンゴの木の上のおばあさん』 ミラ=ローベ(作)
 アンディは、おみやげをもって来てくれたり、どこかにつれて行ってくれるおばあさんがいる友だちが、うらやましくてたまりません。でも、ある日すてきな出会いがあったのです。【中央】

休館します 葦山図書館

葦山図書館は9月26日(月)～10月2日(日)の間、特別館内整理のため休館します。これは、一つひとつの本の所在を確認する作業のための休館です。

期間中はご不便をおかけしますが、ご了承ください。

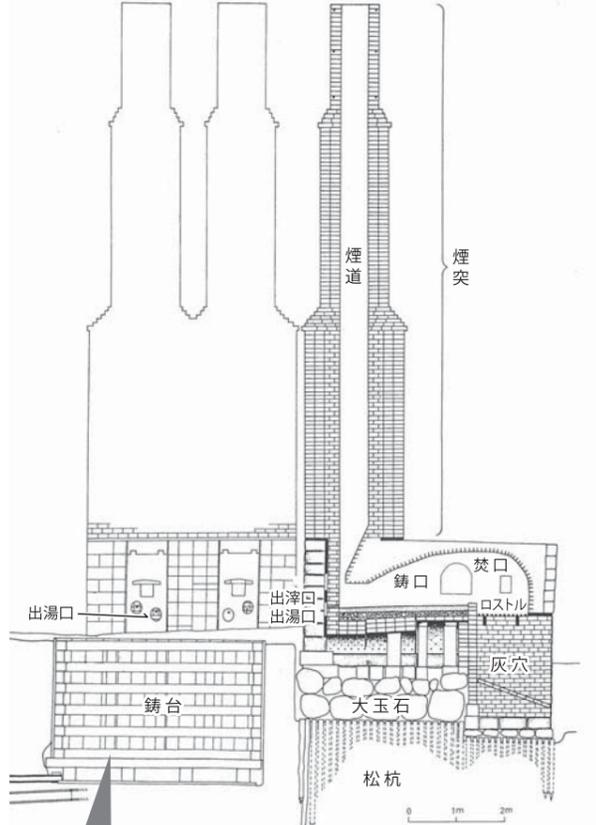
スタッフ通信

昔話の中では、おじいさんやおばあさんが大活躍しています。中でも私が好きな話は『おひやくしようとえんまさま』。ひょうひょうとしたおじいさんが、地獄の閻魔大王や鬼たちを手玉にとる、ゆかいなお話です。(図書館司書 新生)



6月に『九州・山口の近代化産業遺産群』の構成資産候補に追加され、世界遺産登録を目指して動き始めた葦山反射炉。鋳鉄の行われた反射炉として世界に唯一残された貴重なものです。葦山反射炉が建つ地面の下にも関連の施設が存在しており、その様子は1863(文久3)年の反射炉操業時の絵図からうかがうことができます。今回は地下に眠る関連施設のうち、昭和60(1985)年に反射炉の保存修理事業の一環で発掘調査が行われた、鋳台についてご紹介します。鋳台は反射炉本体の出湯口側に隣接し、大砲や砲弾などの形を作る鋳型を置いた場所です。その鋳型に反射炉内で溶かされた鉄が注ぎ込まれたのです。鋳台の発掘調査では、屋根や柱などの部材や耐火レンガなどが投げ込まれた状態が見られ、その中から砲弾も出土しています。投げ込まれた様子から、明治時代に埋め戻されたと考えられます。さらに下面を掘り下げると、地表面から約3m下にて反射炉操業時の床面が見つかりました(右写真)。床面は板材が整然と配置され、その下は枕材と根太材で支えられていました。

鋳台は、地下に掘りこんで、鋳型や大砲などの鋳造品の重さを支える堅固な構造であったことが、発掘調査で分かりました。現在、鋳台があった場所は、埋め戻した状態になっていますが、発掘調査で出土した遺物は、葦山反射炉入口の事務所で展示しています。ぜひ、ご覧ください。



鋳台・床面の様子(発掘調査時に撮影)

文化協会
 だより
 65

市民文化祭 開催!

第7回伊豆の国市民文化祭を開催します。昨年好評だったため、今年も芸能発表会と市民作品展を同会場で同時開催します。入場は無料です。
 とき 9月18日(日) 9時～17時
 19日(月・祝) 9時～16時
 ところ アクシスカつらぎ
 芸能発表会：大ホール
 市民作品展：多目的ホール・ギャラリー・ホワイエ
 参加数 芸能発表会：50団体(個人)(予定) 市民作品展：61団体(個人)
 駐車場 アクシスカつらぎ地下駐車場は、福祉団体・機材搬入優先です。参加者や一般来場者は第2、第3、第4駐車場をご利用ください。
 駐車場に限りがありますので、公共交通機関や乗り合わせでお越しください。市民文化祭の詳細は、広報9月号号と同時配布するチラシをご覧ください。

問合せ 文化振興課(葦山時代劇場内)
 ☎055(949)8600